

JVCケンウッド 決算説明会資料

2016年(平成28年)3月期 第1四半期

株式会社JVCケンウッド

【資料中の略語】

CE	カーエレクトロニクス(セグメント) 市販(事業) OEM(事業) HA(ホームオーディオ)(事業) ASK : ASK Industries S.p.A.
PS	プロフェッショナルシステム(セグメント) COM : コミュニケーションズ(事業) プロ : プロシステム(事業) ヘルスケア(事業) EFJT : EF Johnson Technologies, Inc. Zetron : Zetron, Inc.
O&A	光学&オーディオ(セグメント) AVアクセサリー(事業) クリエーション(ビデオカメラ)(事業) 映像(事業)
SE	ソフト&エンターテインメント(セグメント) コンテンツ(事業) 受託(事業)

- 1. 2016年3月期 第1四半期決算概況**
- 2. 第2四半期以降の取り組み**
- 3. 2016年3月期 通期業績予想**

1. 2016年3月期 第1四半期決算概況

2. 第2四半期以降の取り組み

3. 2016年3月期 通期業績予想

2016年3月期 第1四半期決算 サマリー

- ❖ 売上高 : 事業買収効果(約+29億円)などもあり、増収
- ❖ 営業利益 : 事業売却影響(約△3億円)や為替影響(約△6億円)など
もあって減益も、おおむね想定の範囲内
- ❖ 経常利益 : 営業利益の減少、営業外損益の悪化により減益
- ❖ 純利益 : 関係会社売却損を計上した前期比で特別損益が改善
事業売却による税金の減少などにより、損失減少

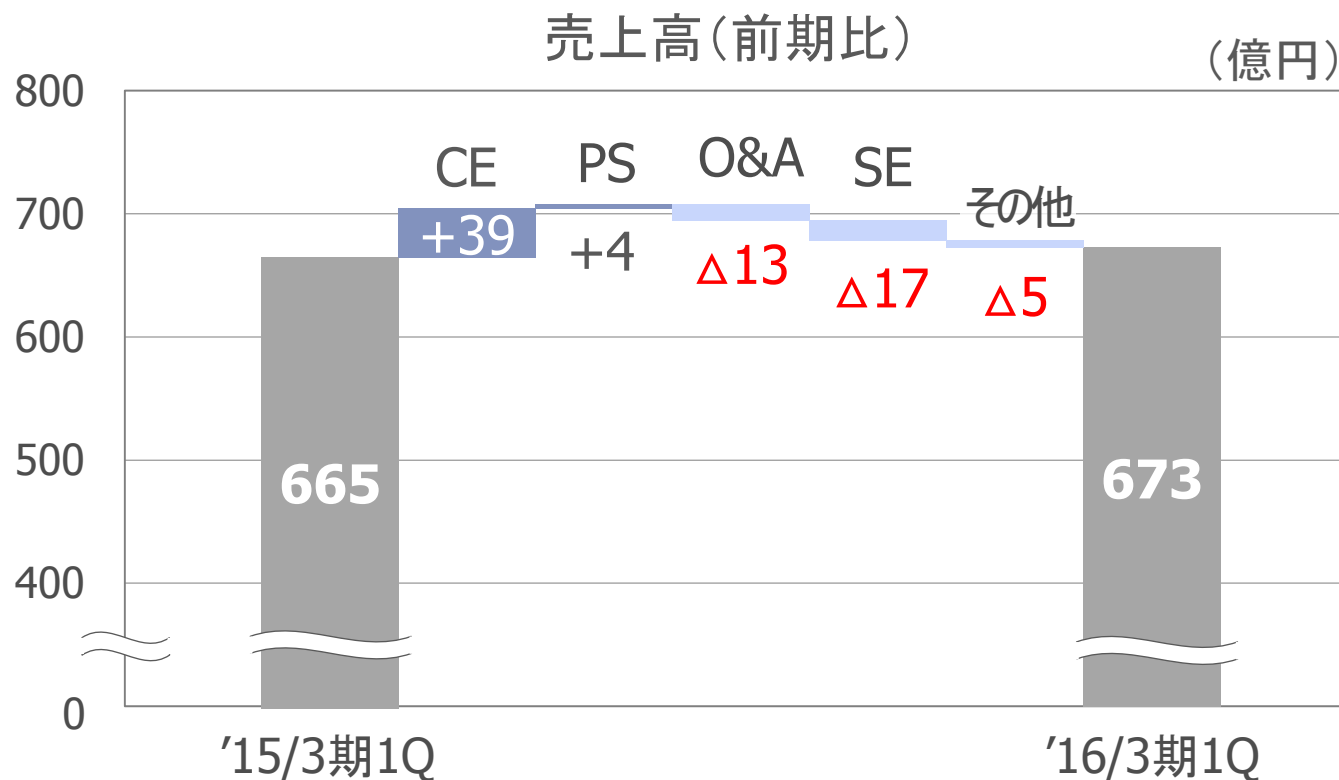
(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益
'16/3期 1Q	673	△11	△16	△23
'15/3期 1Q	665	3	△0	△27
前期比	+8	△14	△16	+3

※ 2016年3月期 1Q為替レート 米ドル:121円、ユーロ:134円
2015年3月期 1Q為替レート 米ドル:102円、ユーロ:140円

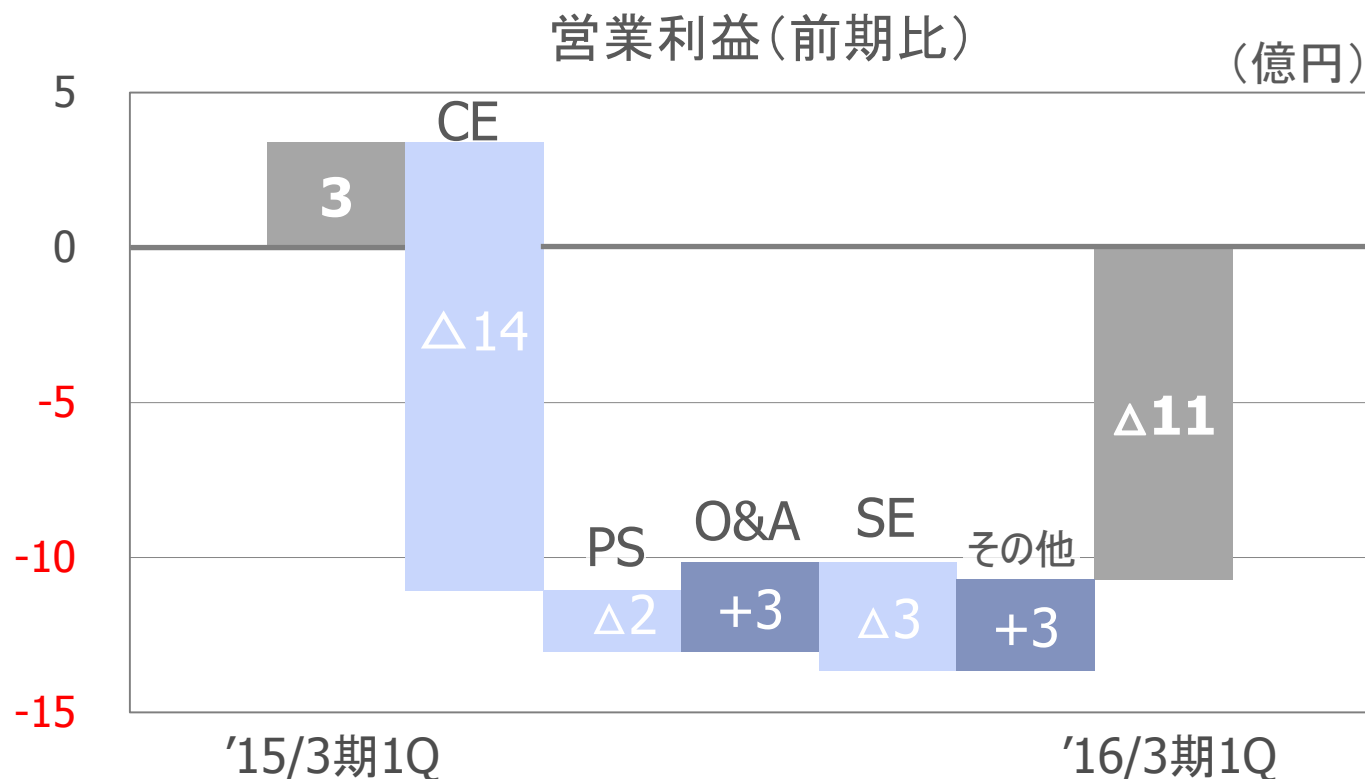
❖ 当期実績: 673億円(前期比 +1.2%) [増収]

- CE : ASK子会社化効果から増収
- PS : COM端末の販売が好調に推移
- O&A : ディスプレイのブランドライセンスビジネスへのシフトなどにより減収
- SE : テイチク全株式譲渡(平成27年4月28日)により減収



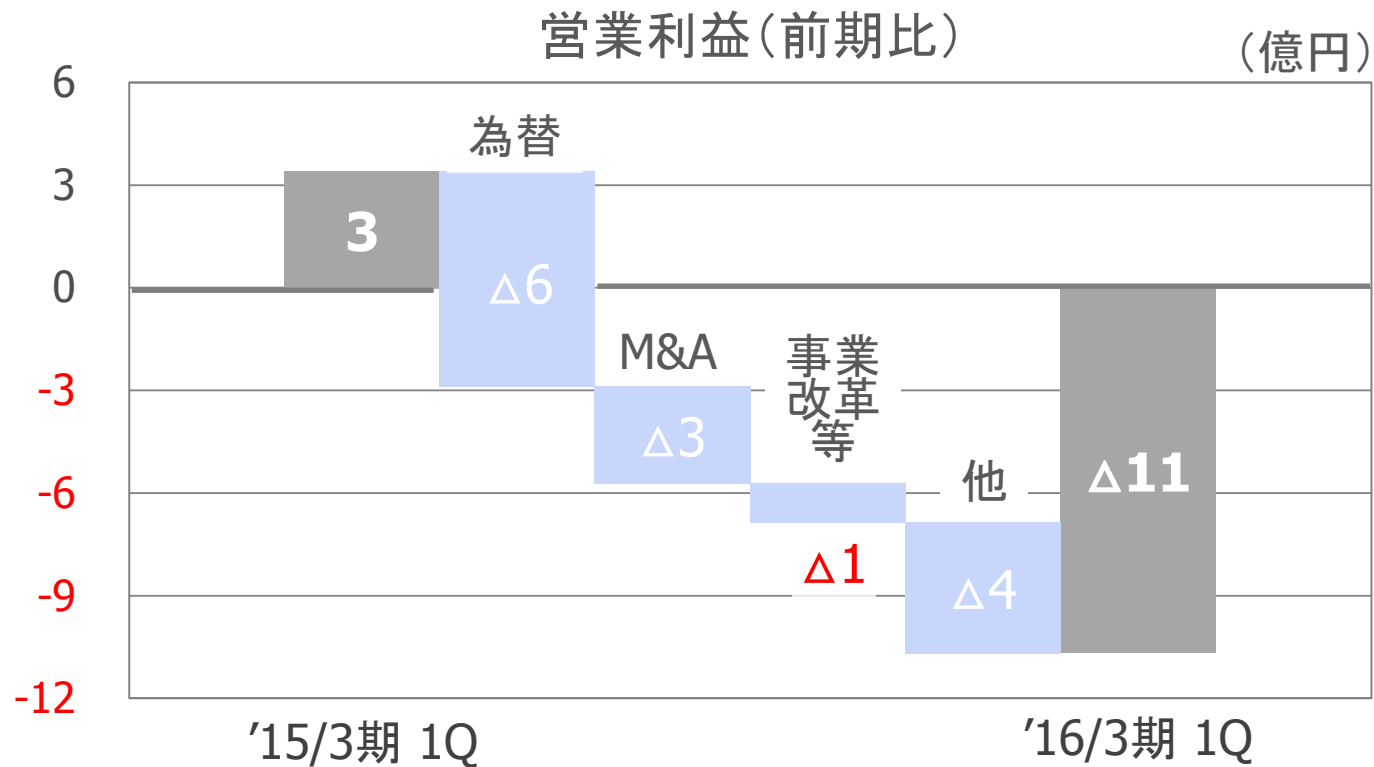
❖ 当期実績：△11億円(前期比 △14億円) [減益]

- CE : 市販のアジア・欧州販売減、用品の開発費増、次世代事業開発費増などから減益
- SE : テイチク全株式譲渡影響などから減益



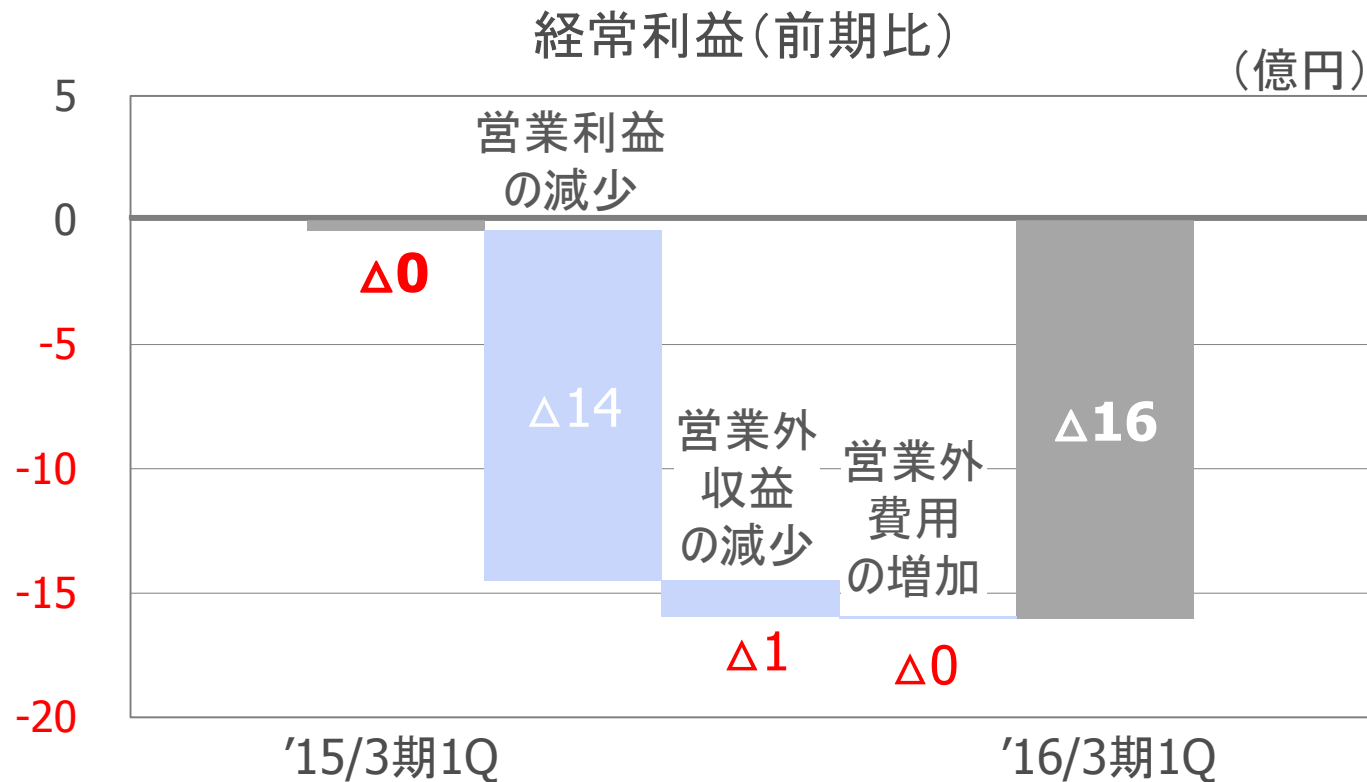
2016年3月期 第1四半期決算 連結営業利益(要因別)

- ❖ 為替影響やM&Aなど、期初より織込み済みの変動要因を除く悪化分は約△5億円と、おおむね想定の範囲内
 - M&Aによる悪化は、テイチク全株式譲渡が主要因



❖ 当期実績：△16億円（前期比 △16億円）

- 営業利益減少に加え、受取配当金の減少などから営業外損益が悪化し減益

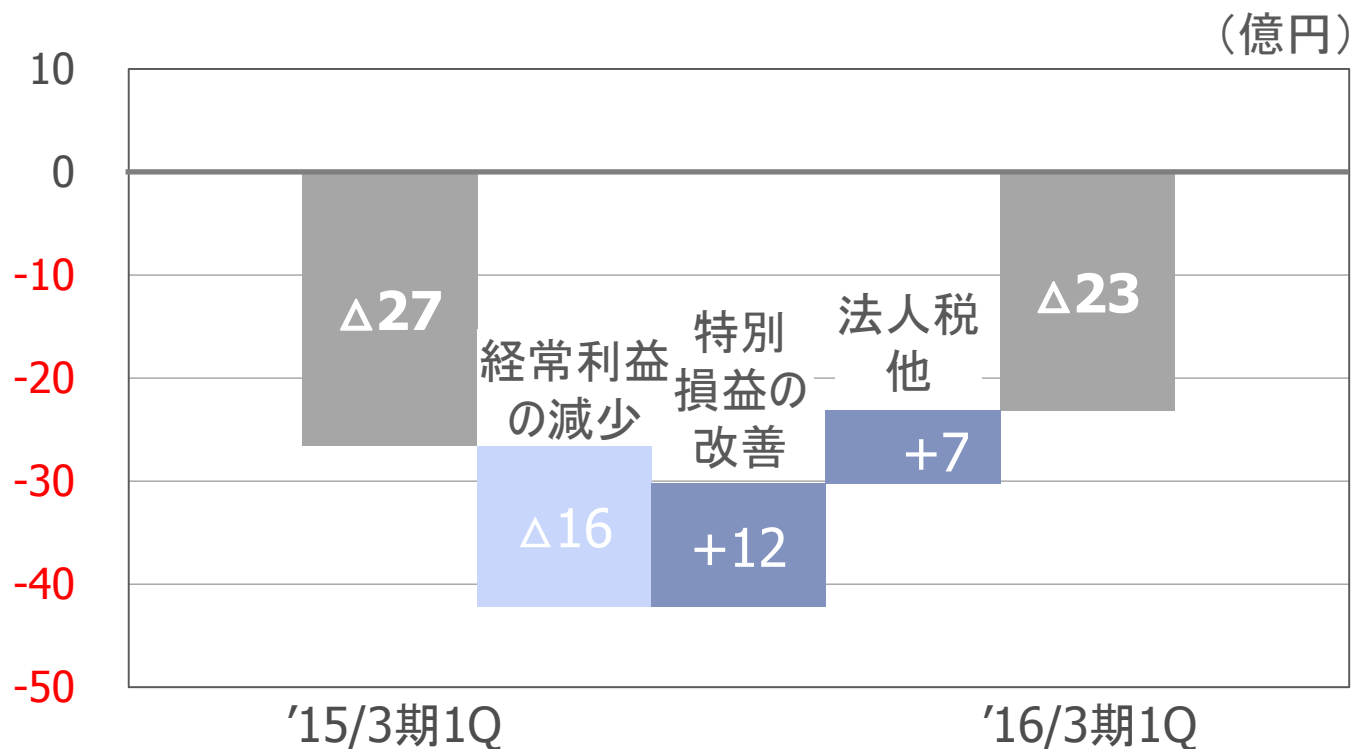


親会社株主に帰属する連結四半期純利益

❖ 当期実績：△23億円（前期比 +3億円）

- 経常利益は減少するも、米国子会社の株式譲渡にともなう関係会社売却損を計上した前期比で、当期は特別損益が改善、テイチク全株式譲渡による税金の減少などもあり、損失減少

親会社株主に帰属する四半期純利益（前期比）



2016年3月期 第1四半期決算 貸借対照表サマリー

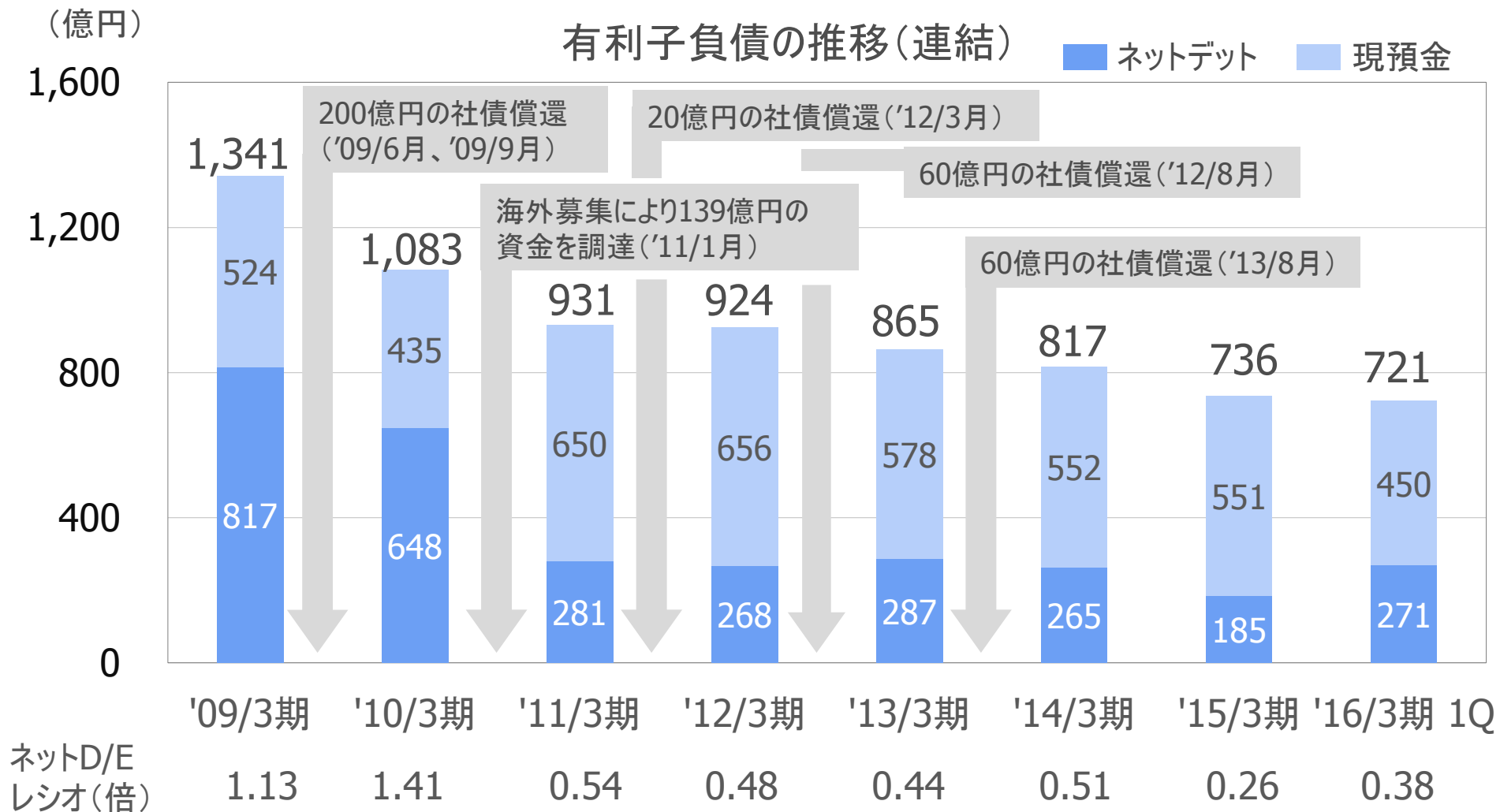
- ❖ 総資産：ASK子会社化により商品及び製品や有形固定資産が増加も、借入金返済やASK株式取得・シンワ株式の追加取得の実施などから、現金及び預金が減少し20億円減
- ❖ 有利子負債(借入金と社債の合計)：15億円減
- ❖ 自己資本比率：0.3%ポイント減少し、25.5%

(億円)

	'15/3期末	'16/3期 1Q末	前期末増減
総資産	2,787	2,767	△20
有利子負債	736	721	△15
ネットデット	185	271	+86
ネットD/Eレシオ(倍)	0.26	0.38	+0.12
資本剰余金	456	456	△0
利益剰余金	222	191	△31
純資産	792	767	△25
自己資本	718	706	△12
自己資本比率(%)	25.8	25.5	△0.3

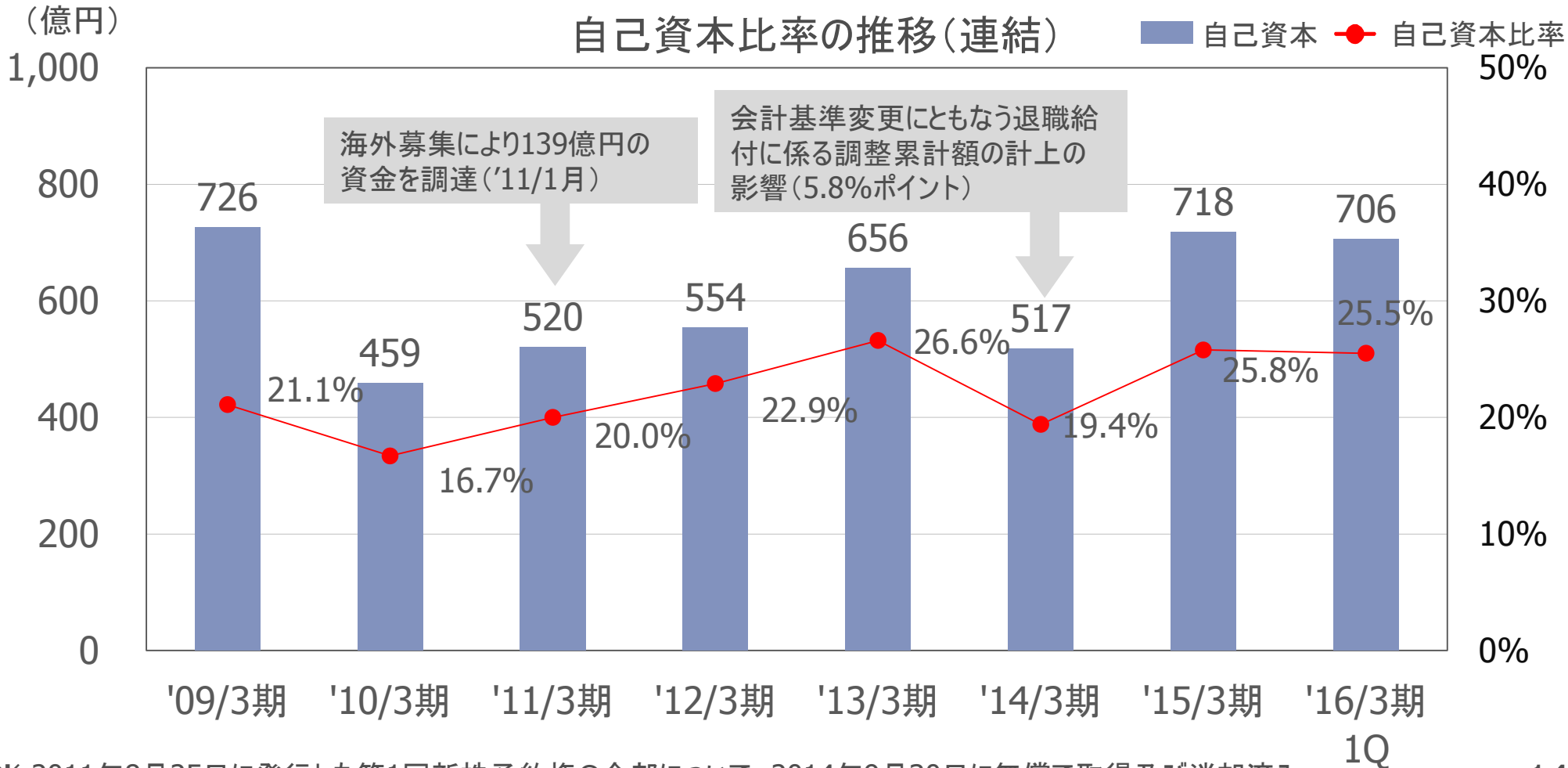
2016年3月期 第1四半期決算 有利子負債

❖ 有利子負債は減少も、ASKの子会社化でネットデットは増加



2016年3月期 第1四半期決算 自己資本比率

- ❖ 四半期純損失の計上などから利益剰余金が減少し、株主資本も減少。さらにシンワ株式追加取得により、純資産が減少。自己資本比率は0.3%ポイント減少し、25.5%へ



※ 2011年8月25日に発行した第1回新株予約権の全部について、2014年9月30日に無償で取得及び消却済み

- ❖ 営業キャッシュ・フローは増加したが、ASK子会社化に加え、有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出が増加したことから、投資キャッシュ・フローが減少

(億円)

	'14/3期	'15/3期	'16/3期 1Q	参考値 '15/3期1Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	149	86	35	△ 1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 107	△ 39	△ 46	△ 22
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 96	△ 75	△ 97	△ 44
フリー・キャッシュ・フロー	43	47	△ 11	△ 23

※ フリー・キャッシュ・フロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー

(参考)セグメント別情報

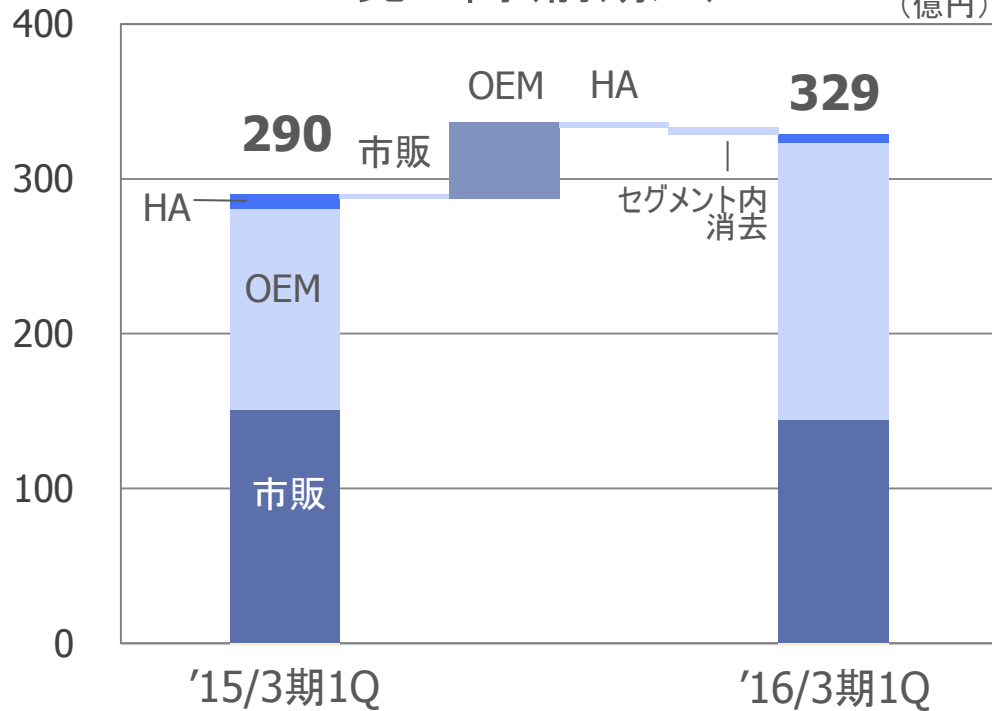
2016年3月期 第1四半期決算 カーエレクトロニクス

- ❖ 売上高 : 市販は海外市場が中近東・欧州の市況低迷の影響を受けるも、国内市場が好調に推移しほぼ前期並み。OEMはASKが連結子会社化されたことから増収
- ❖ 営業利益 : 市販は国内増益も、アジア・欧州の減収影響から市販全体では減益。OEMは新規受注にともなう開発費増、次世代事業開発投資増などから減益

* HA・・・ホームオーディオ

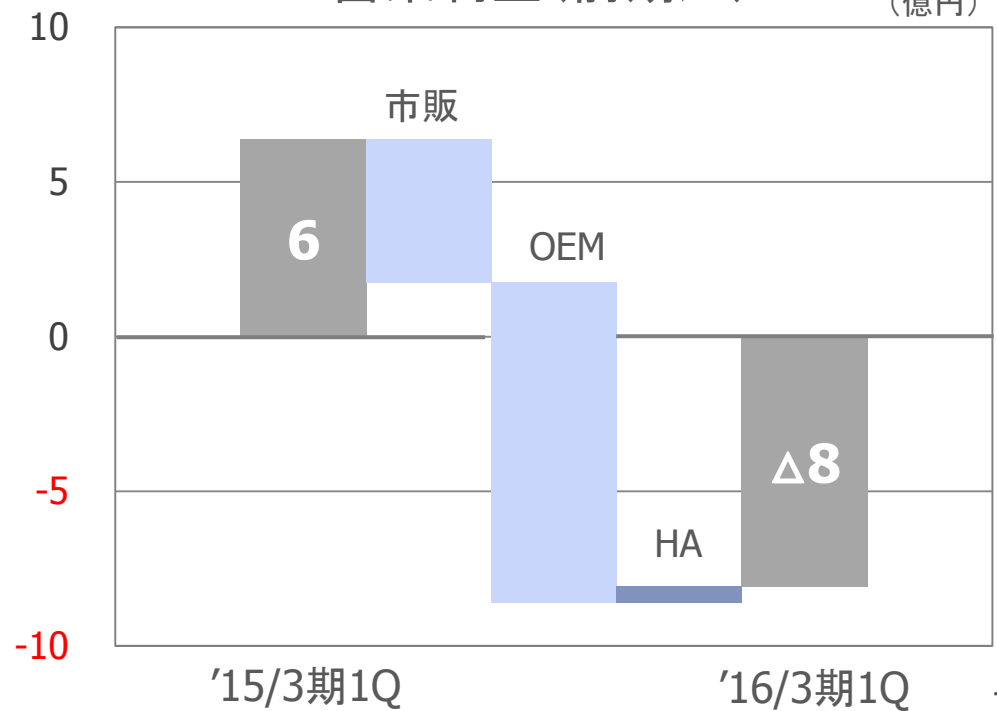
売上高(前期比)

(億円)



営業利益(前期比)

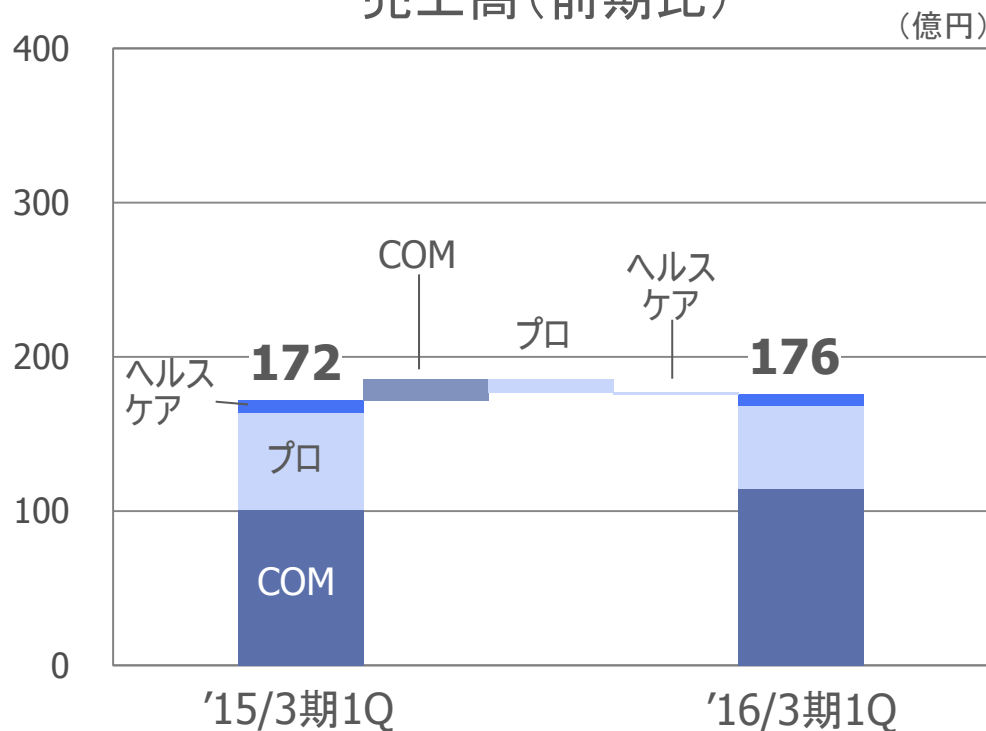
(億円)



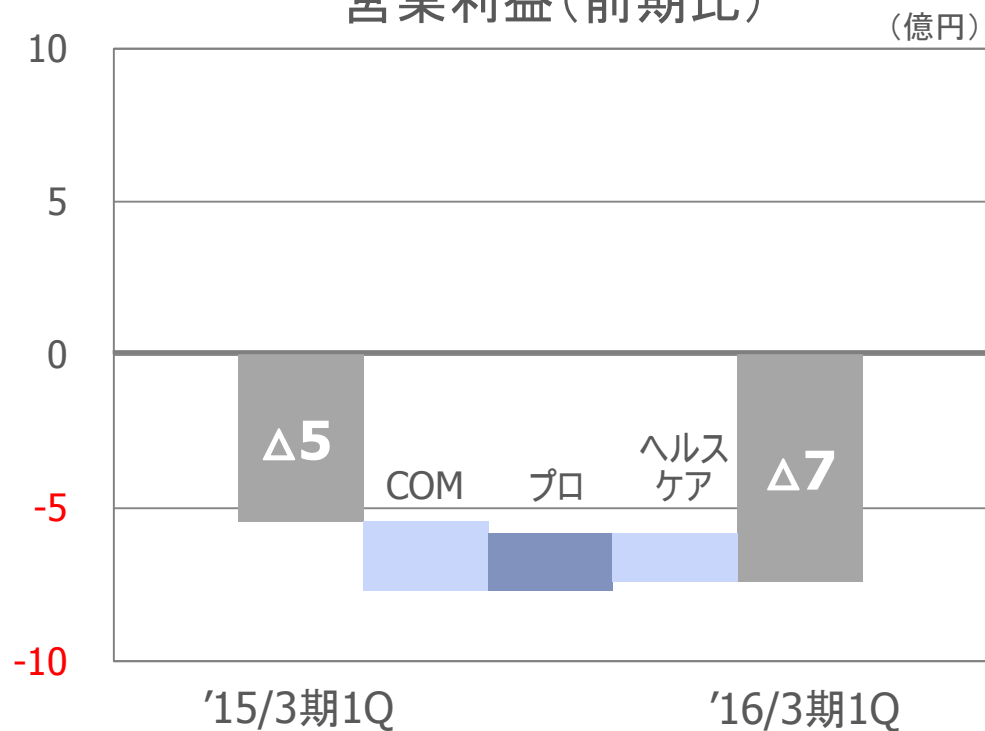
2016年3月期 第1四半期決算 プロフェッショナルシステム

- ❖ 売上高 : COMは最大市場の北米で業務用無線が好調に推移したこと、為替変動の影響などにより増収。プロ、ヘルスケアは海外販売が減少したことから減収
- ❖ 営業利益 : COMはEFJTの新規受注獲得の遅れやのれん償却費増加などから減益。プロは減収の影響を固定費削減などでカバー。ヘルスケアは減収により減益

売上高(前期比)



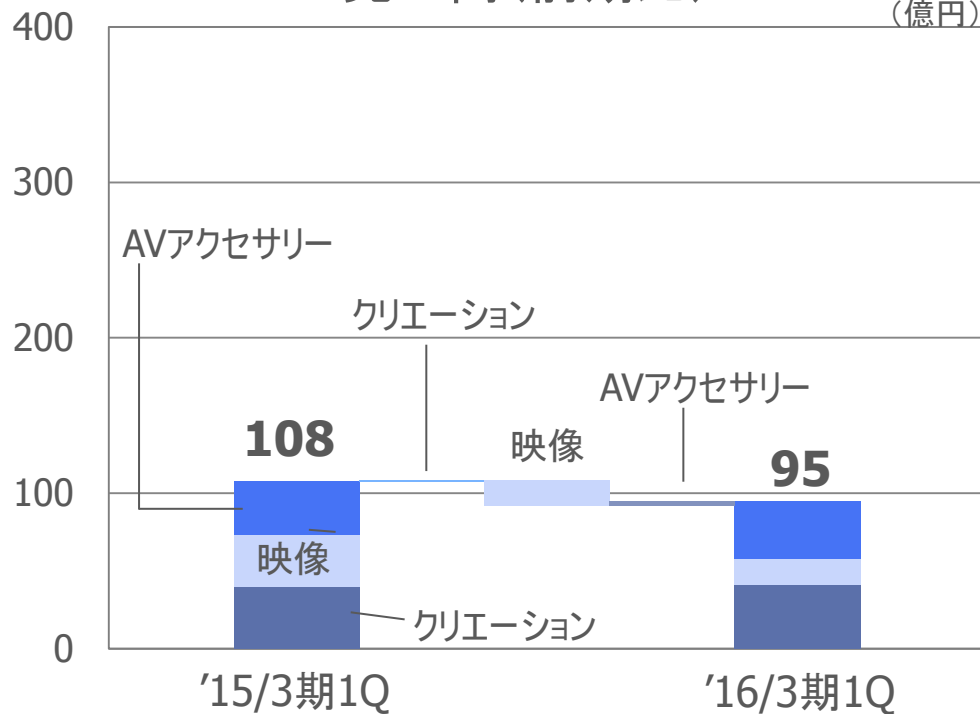
営業利益(前期比)



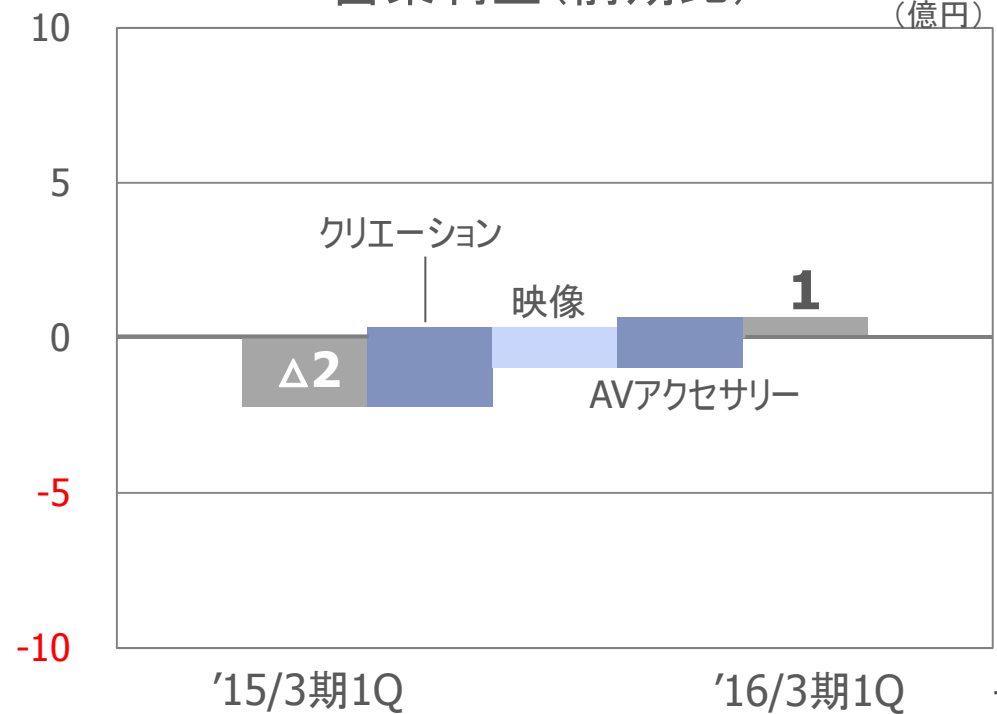
2016年3月期 第1四半期決算 光学&オーディオ

- ❖ 売上高 : 民生ビデオカメラの商品絞り込みが一巡、プロ用ビデオカメラが増加したことから、クリエイションは増収。映像はディスプレイのブランドライセンスへのシフトから減収。AVアクセサリは国内外で販売が好調に推移し増収
- ❖ 営業利益 : クリエーション、AVアクセサリは増収により増益も、映像は減収により減益

売上高(前期比)



営業利益(前期比)

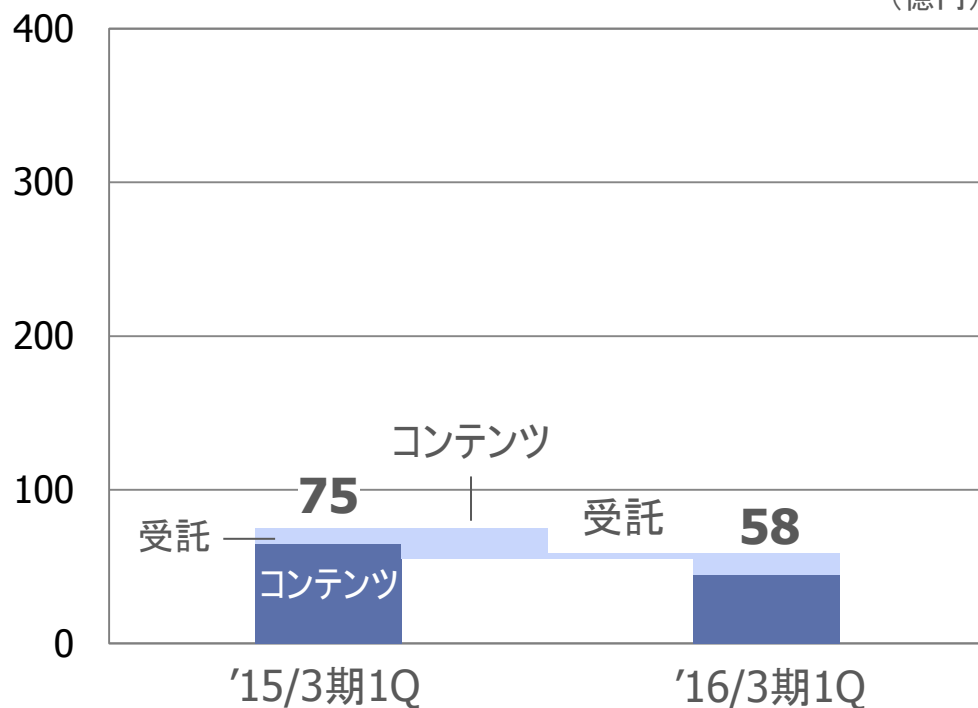


2016年3月期 第1四半期決算 ソフト&エンターテインメント

- ❖ 売上高 : コンテンツはテイチク全株式譲渡影響から減収。受託は新規製品が奏功し増収
- ❖ 営業利益 : コンテンツはテイチク全株式譲渡影響から減益。受託は増収により増益

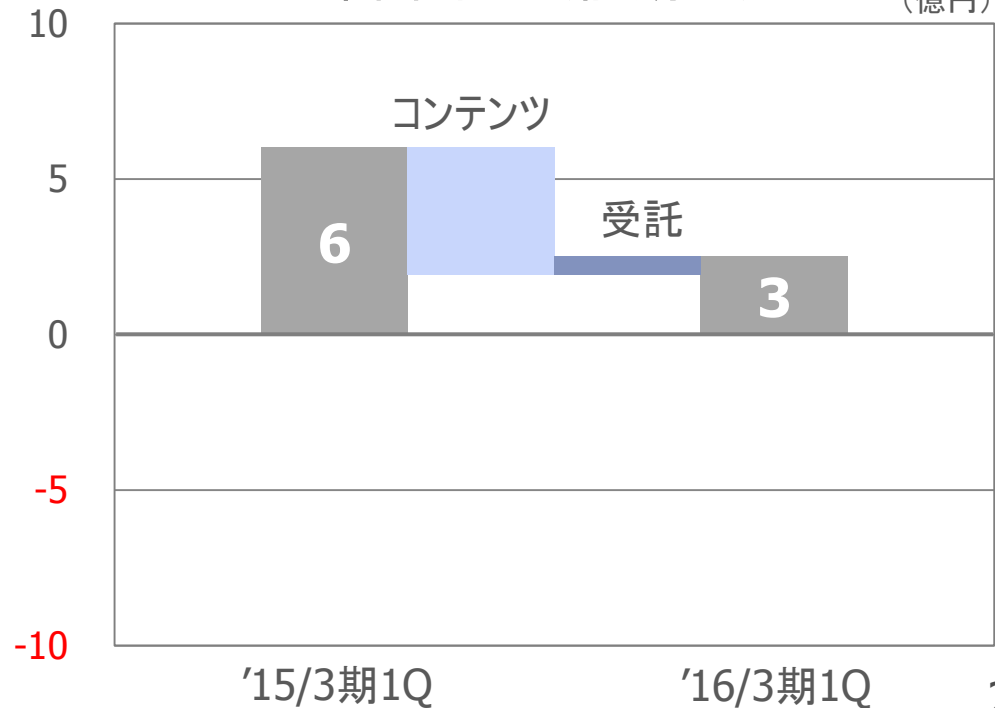
売上高(前期比)

(億円)



営業利益(前期比)

(億円)



1. 2016年3月期 第1四半期決算概況
2. 第2四半期以降の取り組み
3. 2016年3月期 通期業績予想

第1四半期の総括

❖ 成果

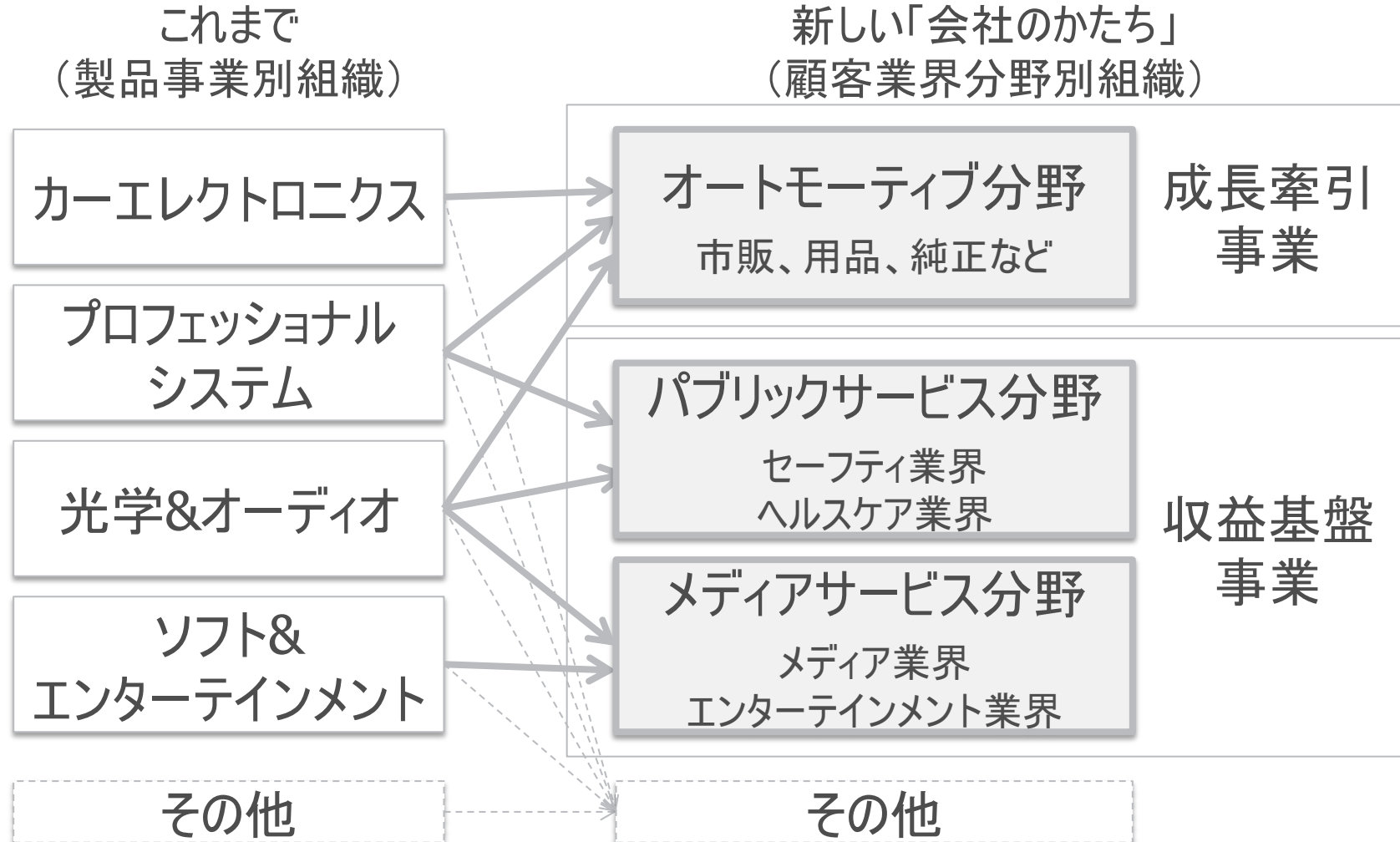
- CE市販がアジア・欧州の経済環境悪化影響を受けるも、米州への6月新商品投入効果及び国内ナビ好調持続で回復傾向
- PS COMの米国無線子会社において、新CEO指揮による営業体制強化の結果、受注残増加など効果が発現
- 来期以降に繋がる用品ナビの受注促進

❖ 課題

- 顧客業界分野別組織へのスムーズな移行とマーケット重視体制の徹底による拡販
- CEは、市販での米州新商品の本格導入・拡販、および新顧客向け用品ナビのスムーズな導入・拡販
- PSは、EFJTの営業体制強化による受注拡大

2Q以降の取り組み ～ 組織再編

- ❖ 7/1付で顧客業界分野別組織に移行し、マーケット重視体制の徹底による拡販をはかっている



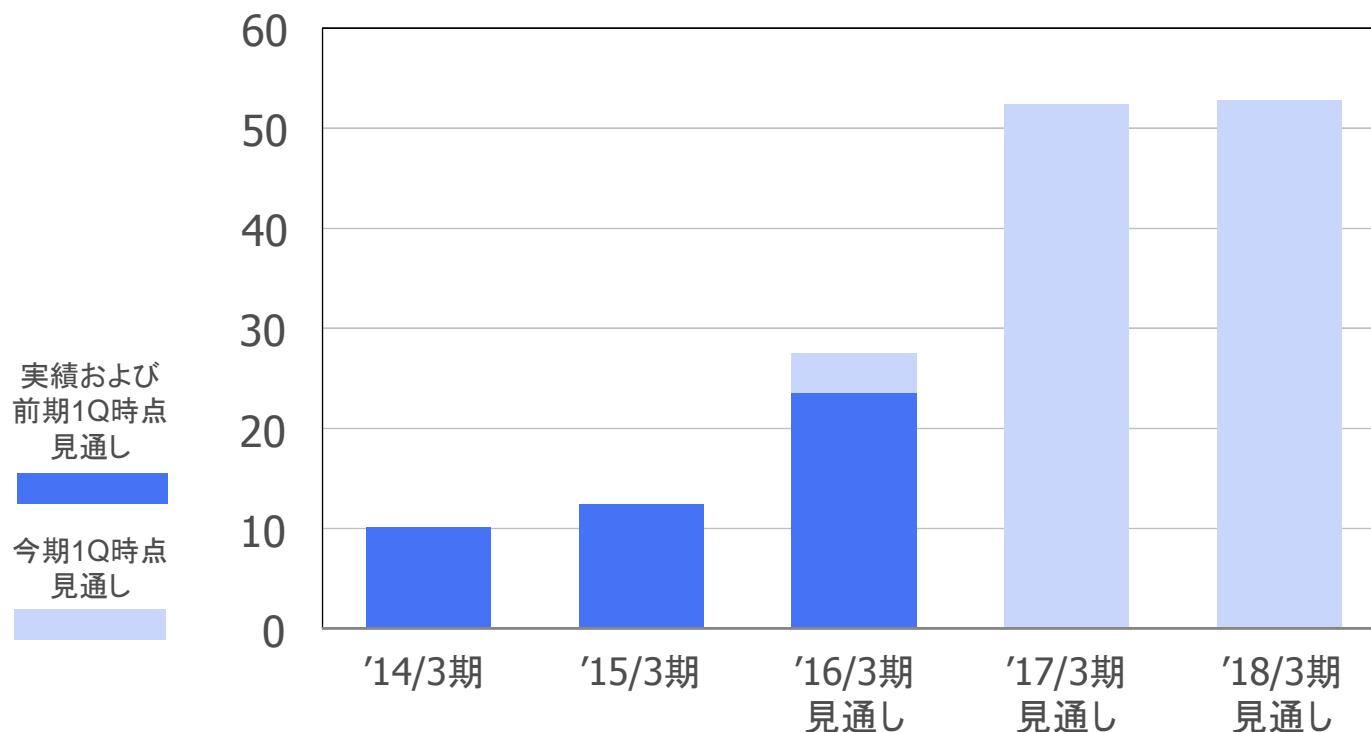
❖ 市販の回復継続

- Apple CarPlay & Android Auto対応ディスプレイオーディオ投入により6月より急回復→さらに2Q以降ラインナップ追加

❖ 用品ナビの大型受注獲得

- 市販モデル(彩速ナビ)の好評価により用品ナビの新規大型受注獲得

用品ナビ実績・見通し (万台)

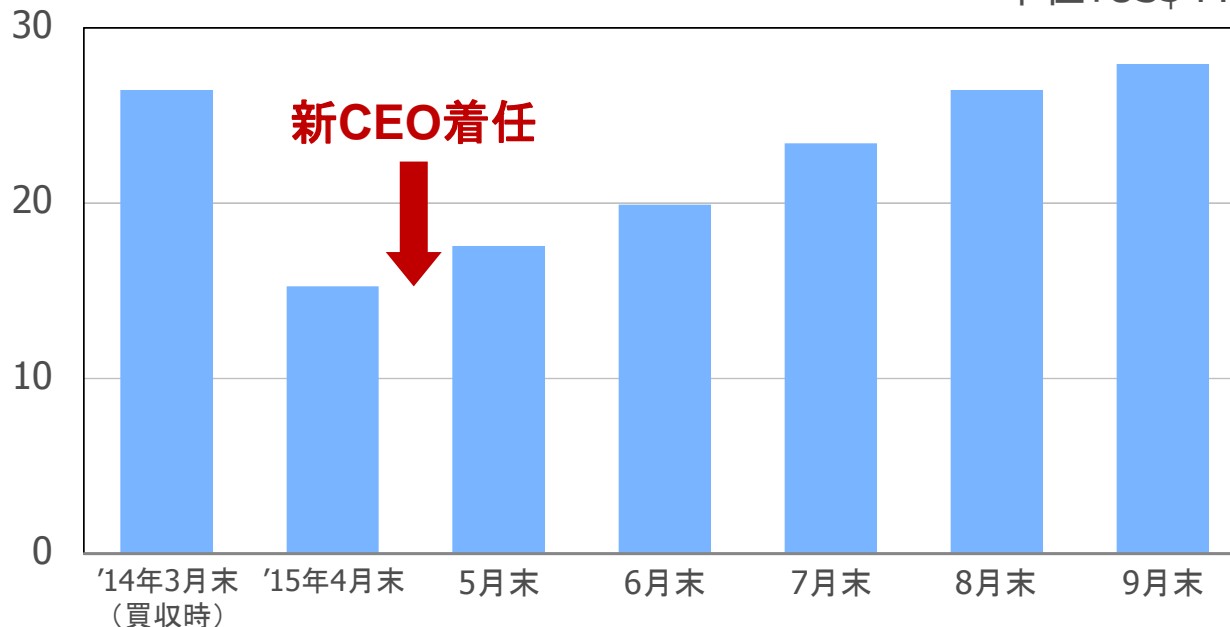


2Q以降の取り組み ～ 事業別施策② EFJT

- ❖ 新CEO着任後、受注活動活発化で、急速に受注残が増加
下期より売上に貢献し、通期で大幅な業績改善を見込む
- ❖ 主な施策
 - 新規システム案件受注強化の営業体制再構築
 - 当社米国販社 (JKUSA) の販売網の最大活用で端末販売の拡大

受注残推移

単位: US\$ M



1. 2016年3月期 第1四半期決算概況
2. 第2四半期以降の取り組み
- 3. 2016年3月期 通期業績予想**

2016年3月期 通期業績予想

❖ 通期業績予想は据え置く

- オートモーティブ市販は6月投入新商品が牽引し回復継続。用品で新規顧客向け出荷開始と受注活動強化継続
- パブリックサービスではEFJTの新CEO傘下での受注拡大継続に期待
- メディアサービスではAVアクセサリ、プロカメラなど堅調継続を見込む
- 顧客業界分野別の体制でマーケット重視の徹底による売上拡大

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
'16/3期	3,000	80	45	20
'15/3期	2,850	66	32	47
前期比	+150	+14	+13	△27

※ 2016年3月期想定為替レート 米ドル:120円、ユーロ:128円
2015年3月期実績為替レート 米ドル:110円、ユーロ:139円

JVC KENWOOD

creates excitement & peace of mind

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1)主要市場(日本、米州、欧州およびアジアなど)の経済状況および製品需給の急激な変動、(2)国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3)ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4)資本市場における相場の大幅な変動、(5)急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。